

# ↑ **HEAT PROTECT**® **ヒートプロテクト**

**屋根用**

**遮熱・透湿 防水シート**  
JIS規格適合品 (透湿 防水シート)

**JIS A6111**

<用途>

一般住宅、集合住宅等の木造家屋他 一般建築物

**輻射熱を  
97%カット!**

## 高遮熱性

最上階が暑いのは屋根が熱いから。  
屋根からの熱の移動を止める必要があります。

## 高品質性

通常のアルミ蒸着とは違う「アルミ箔」を採用  
することで最大限の遮熱効果を発揮します。

## 高透湿性

ヒートプロテクトの透湿性能により、屋根裏や  
室内の湿気を排出することで野地板の蒸れを  
防ぎ湿気を外に逃がします。

## 高防水性 (JIS A6111取得)

特殊なフィルムのラミネート構造が防水性と  
釘穴シーツ性を確保することを可能としました。  
※JIS A6111 防水性と釘穴止水性をクリア

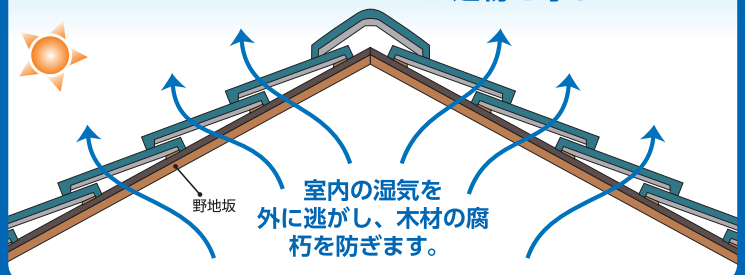
## 高施工性 (軽量)

1本が6.2kgと軽量で表面の穴あきアルミ箔の  
仕様が滑りを抑えます。

ヒートプロテクトのアルミ箔が最大の遮熱効果を発揮!

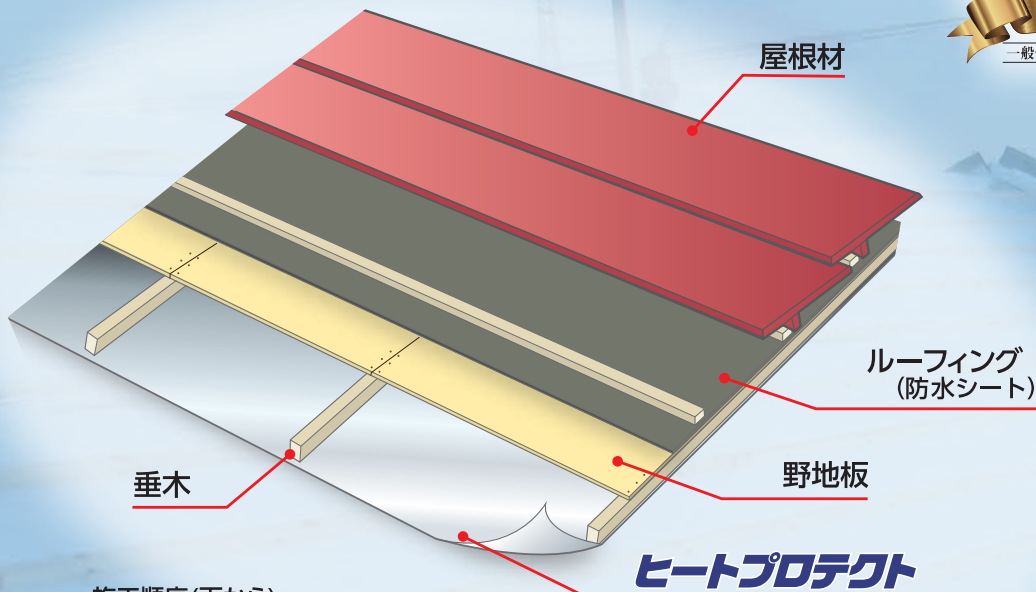
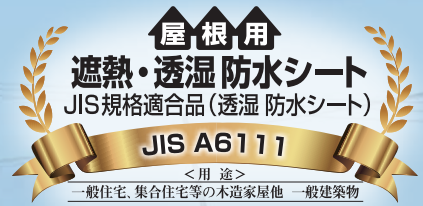


ヒートプロテクトの透湿性が建物を守る!



# ヒートプロテクト

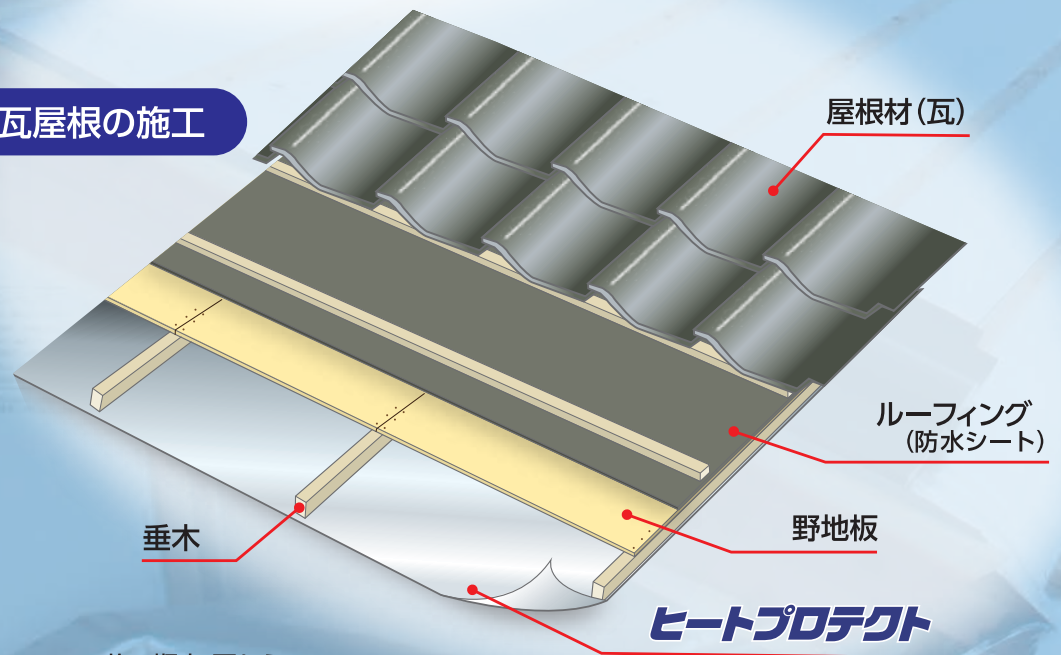
〈施工例〉



施工順序(下から)



## 瓦屋根の施工



施工順序(下から)



### 【屋根下工事について】

- ① 屋根下のルーフィングはしっかりした防水シートを使用して雨漏りを防ぐ。
- ② ルーフィングの下には野地板を置き、垂木でしっかり支える。
- ③ ルーフィングと垂木下との隙間にヒートプロテクトを設置する。  
(隙間をしっかり取る様、心がける)
- ④ 部屋の天井部の上に断熱材を使用する。  
断熱材とヒートプロテクトとの相乗効果で「夏涼しく、冬暖かい」効果と「結露を発生しにくくする」環境造りをする。

屋根用 遮熱・透湿防水シート  
「ヒートプロテクト」

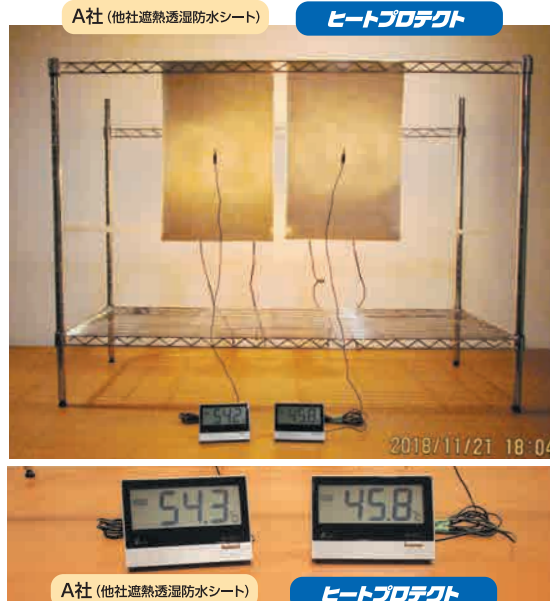
遮熱実験

他社 屋根用遮熱・透湿防水シートとの比較実験

他社の屋根用 遮熱・透湿防水シートと「ヒートプロテクト」を  
250Wの赤外線ランプを照射して遮熱効果を検証しました。

検証実験

1



A社 (他社遮熱透湿防水シート)

ヒートプロテクト

A社 (他社遮熱透湿防水シート)

ヒートプロテクト

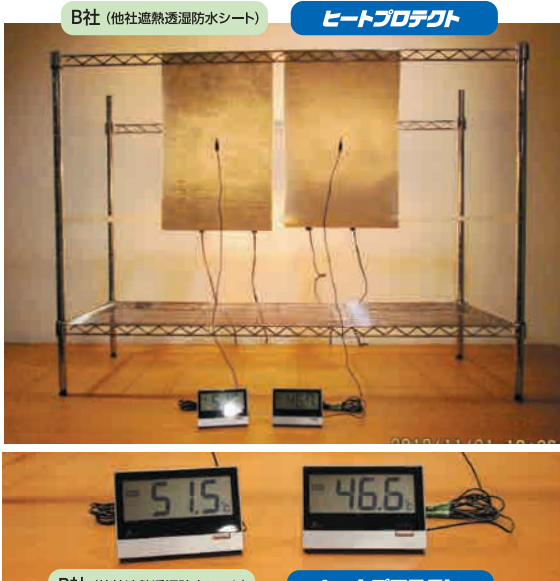
54.3℃

45.8℃

温度差約 8.5℃

検証実験

2



B社 (他社遮熱透湿防水シート)

ヒートプロテクト

B社 (他社遮熱透湿防水シート)

ヒートプロテクト

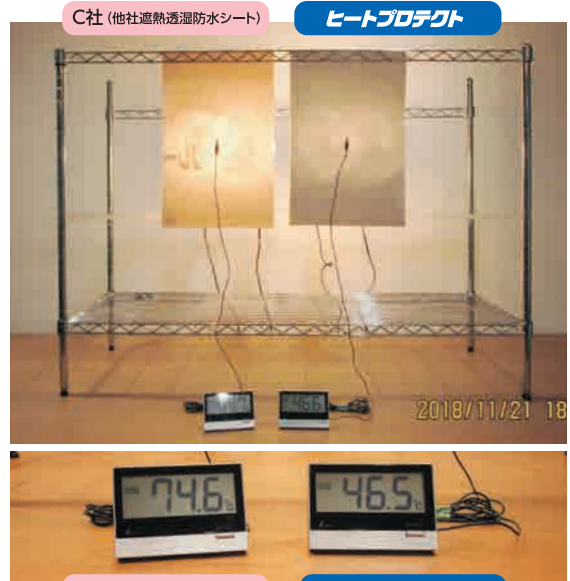
51.5℃

46.6℃

温度差約 4.9℃

検証実験

3



C社 (他社遮熱透湿防水シート)

ヒートプロテクト

C社 (他社遮熱透湿防水シート)

ヒートプロテクト

74.6℃

46.5℃

温度差約 28.1℃

## 製品仕様

商品名	サイズ	重さ
ヒートプロテクト 屋根用	幅1,000mm×長さ40m巻	約6.2kg

## HEAT PROTECT (ヒートプロテクト) 品質性能試験結果

※下記データは試験結果であり、保証値ではありません。

性能項目	評価項目	JIS A6111:2016 屋根用透湿防水シート	ヒートプロテクト
透湿性	透湿抵抗 ( $m^2 \cdot s \cdot Pa / \mu g$ )	0.65以下	0.22
強度	引張強さ (N)	縦、横とも100以上	縦178/横111
	つづり針保持強さ (N)	縦、横とも50以上	縦77/横60
発火性		発火しない	しない
防水性	水圧 (kPa)	10以上	39
耐久性 (促進暴露: WS-A 加熱処理: I-2)	水圧 (kPa)	8以上	30
	引張強度残存率 (%)	縦、横とも初期値の残存率50以上	縦108/横105
熱収縮 (促進暴露: WS-A)	収縮率 (%)	1.0以下	0.4
釘穴止水性	水位低下	10個の平均値が5mm以下 かつ水の全流出が1個もない。	全流出は無し
	水位の差 (mm)		1.2

試験実施機関: 一般財団法人 建材試験センター 第17A3596号

## 加熱処理条件

記号	加熱処理条件		備考
	試験温度	試験期間	
I-1	90±2℃	7週間	10年相当
II-1		17週間	30年相当
III-1		26週間	50年相当
I-2	80±2℃	14週間	10年相当
II-2		32週間	30年相当
III-2		52週間	50年相当

### ⚠ 注意事項

- 原則として3寸勾配以上の屋根でご使用ください。3寸未満の勾配屋根でご使用の場合は販売店へお問合せください。
- 屋根葺き材と遮熱・透湿ルーフィング間で湿気排出が可能となる納まりとしてください。
- ゴムアス系の粘着テープは使用しないでください。
- 桟木の固定等で自動釘打ち機による、金属線で結束された釘(ワイヤネイル)は、釘に残るワイヤが遮熱・透湿ルーフィングを破く恐れがあるので使用しないでください。
- ステーブルの打ち損じ(座屈等)、空打ちは、漏水の原因になるので、屋外用防水テープで補修してください。
- 野地板等表面の清掃を必ず行い、表面に突起がない事を確認してください。
- 野地板は隙間を開けず段差のないように施工してください。
- 遮熱・透湿ルーフィングを施工する際に、傷や破れ等がない事を確認してください。
- ステーブルは重ね部以外には打たないで下さい。もし打った場合は必ず屋外用防水テープを貼って補修してください。
- 重ね部は長手方向200mm以上、流れ方向100mm以上としてください。各部納まり部分の施工については、販売店にお問い合わせください。
- 火や高熱物を近づけないでください。
- 強風下での施工は避けてください。
- 屋根材の施工は遮熱・透湿ルーフィング施工後速やかに施工してください。荒天が予想される場合はブルーシート等で養生してください。
- 防腐・防蟻加工された桟木等は薬剤が十分乾燥している事を確認して施工してください。
- 本製品単体で防水を保証するものではありません。

※予告なしに製品の価格、仕様を変更する場合がございますのでご了承ください。 ※当社の許可なく、インターネット及び媒体関係への転載を禁止致します。

2020.1



■本社 〒959-1104 新潟県三条市東光寺3689-1  
TEL 0256-64-7785 FAX 0256-64-7764  
■東京営業所 〒110-0015 東京都台東区東上野2-10-10 協和ビル2F  
TEL 03-3836-1517 FAX 050-3737-7584  
■成田出張所 〒286-0101 千葉県成田市十倉三37 (株)サンリツ内  
E-mail info@sunyou-pmp.co.jp  
URL http://www.sunyou-pmp.co.jp

代理店